

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育心理学 Educational Psychology		2年	前期	月曜日・2時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
発達心理学Ⅰ、幼児心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程上の科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
秋山真奈美		講義棟3階	火・土・授業時間を除く	授業中に指示します
授業の概要				
本講義では、教育を行う場合にぜひ心得ておきたい、「学習」・「知能」の概要やその「評価」方法、そして行動の原動力となる「欲求」と、その行動が「適応」しているか否かについての捉え方、また「適応」していない場合の「教育相談」の仕方について学習し、実際の場面にその知見を役立たせることを目指す。効果的な教育方法についての知見を、ぜひ身につけてもらいたい。				
授業の到達目標				
①学習および行動のメカニズムを理解できるようにする。 ②対象の状態に応じたよりよい「学習支援」への知見を獲得することができるようにする。 ③教育効果を見据えた、計画・実践・評価ができるようにする。				
授業の方法				
視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。ディスカッション等を多く含む。単元の終了ごとに小テストを行う。 好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。				
学習の成果				
①効果的な教育方法についての知見を身につけることができる。 ②実習期間を含む開講であることを活かし、実際の保育場面において学んだことを試行錯誤し、客観的な視点から事態を検討することができる。 ③自分の働きかけの効果をモニタリングし、支援を必要とする対象に妥当な言動をとることができる。 ④学習および行動のメカニズムを理解することができる。 ⑤対象の状態に応じたよりよい「学習支援」への知見を獲得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 保育と教育心理学 保育者に求められていること			
第2回目	学ぶとは：学習の基礎理念 条件づけ シェイピング			
第3回目	賞罰の功罪：学習過程中的賞罰の功罪について（※ディスカッション→発表）			
第4回目	学習の方法・学習指導法の現在：観察学習 概念学習 運動学習			
第5回目	学習の方法・学習指導法の現在：プログラム学習 発見学習（※実験含む） 有意味受容学習 試行錯誤学習			
第6回目	学習の方法・学習指導法の現在：発達の最近接領域と学習支援 状況的学習（文化からの学び） 学習指導形態			

第7回目	学習の方法・学習指導法の現在：コンピュータ教育の功罪	
第8回目	学習理論の心理学的応用：行動療法の基礎理論と日常生活への応用	
第9回目	学習と教育：映像資料視聴（※次週レポート提出）	
第10回目	学習の動機づけ：動機づけ 学習された無力感 学ぶ心を育てるために（学習行為の原動力）	
第11回目	学ぶ意欲と耐性：成長欲求とその充足 欲求不満耐性を育てるには	
第12回目	適応：適応と不適応 その子らしさと集団 教育相談（カウンセリング）の考え方 関わりの中からの理解	
第13回目	考えることと創造すること：人間と思考 子どもの考え方 知能とは 評価の意義 創造性と人間性	
第14回目	記憶：記憶のしくみと役割 記憶の発達	
第15回目	総括：幼児教育と心理学 期末考査（論述式筆記試験）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	10%	ディスカッション時の積極的な協議姿勢、発表時の質問などは高く評価する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は減点の対象とする。
レポート	20%	提出点10点満点、内容点10点満点で評価する。授業中に視聴した映像資料の感想文を、翌週提出してもらおう。教育者としての視点を重視する。
調査報告書		
小テスト	5%	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
中間・学期末試験	60%	5問中3問を選択して論述すること。学習の成果が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
発表内容（態度含む）	5%	グループディスカッションの結果を報告してもらう際には、内容及びプレゼンテーションの巧緻を評価する。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『新版 保育のための教育心理学』坂原明〔編〕（おうふう）。参考書は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。		
履修上の心得・ルール		
講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。		